

## エゼキエル書4-7章 「裁きによる主の栄光」

### 1A エルサレムの包囲 4-5

#### 1B 咎負う民 4

1C 対峙される神 1-8

2C 食べ物の欠乏 9-17

#### 2B 諸国より悪い民 5

1C 三区分の裁き 1-12

2C 熱心な語り 13-17

### 2A イスラエルの荒廃 6-7

#### 1B 偶像の祭壇 6

1C 高き所の汚し 1-10

2C 打ち叩く主 11-14

#### 2B 終局の到来 7

1C 行ないへの報い 1-9

2C 富や力の空しさ 10-22

3C 聖所の汚し 23-27

## 本文

エゼキエル 4 章を開いてください。私たちは前回、エゼキエルが主に召されて、その言葉を語ることを命じられました。そして、その語る相手が、「反逆の家」に対するものだということを、主はエゼキエルに教えられました。私たちは、物を語る時に相手が聞いてくれるものと思って話すのですが、エゼキエルの場合はそうではありません。したがって、なおのことエゼキエルには、人の反応を見て語るのではなく、主が命じられたことのみを語ることを求められました。私たちも、そのことが必要です。

その命じておられる様子を、3 章の最後の数節で読みました。「3:24-27 しかし、霊が私のうちにはいり、私を立ち上がらせた。主は私に語りかけて仰せられた。「行って、あなたの家に閉じこもっていろ。人の子よ。今、あなたに、なわがかけられ、あなたはそれで縛られて、彼らのところに行けなくなる。わたしがあなたの舌を上あごにつかせるので、あなたは話せなくなり、彼らを責めることができなくなる。彼らが反逆の家だからだ。しかし、わたしは、あなたと語るときあなたの口を開く。あなたは彼らに、『神である主はこう仰せられる。』と言え。聞く者には聞かせ、聞かない者には聞かせるな。彼らが反逆の家だからだ。」これだけ、主によって強く命じられ、促しを受けながら語っています。なぜならば、彼らがそれだけ無頓着で、無関心だったからです。彼らが語り聞かせても、全く意に介さないという状況であったでしょう。

## 1A エルサレムの包囲 4-5

それで主は、彼らの注意を引くような言葉、いや象徴的行為をエゼキエルに行わせます。彼は、言葉を使わずに、パフォーマンスだけで神のお語りになっていることを伝えます。しばしば、外国で短期宣教旅行に行く時に、道端でパフォーマンスをして、イエス様の十字架を演じ、福音を伝えることがあります。まさにそうしたことを行ないます。しかし皮肉なのは、彼らはエゼキエルと同じ言葉を話すユダヤ人なのです。けれども、それでも彼らは言うことを聞かないと、3章で主は語っていました。

## 1B 咎負う民 4

### 1C 対峙される神 1-8

4:1 人の子よ。一枚の粘土板を取り、それをあなたの前に置き、その上にエルサレムの町を彫りつけよ。4:2 それから、それを包囲し、それに向かって壘を築き、塹壕を掘り、陣営を設け、その回りに城壁くずしを配置せよ。4:3 また、一枚の鉄の平なべを取り、それをあなたと町との間に鉄の壁として立て、あなたの顔をしっかりとこの町に向けよ。この町を包囲し、これを攻め囲め。これがイスラエルの家のしるしだ。

エルサレムの町の包囲をエゼキエルが演じます。バビロン軍がエルサレムの町に対してする包囲の姿を、細かく、誰にでも分かるようにして演じさせています。それから3節における鉄の平鍋は、主ご自身がこの包囲に対してどのような思いを持っておられるかを示しているものです。主は御顔を照らして、恵みをもって民に臨まれますが、ここでは鉄の壁として、つまり打ち砕く存在、敵対する存在として臨まれています。エルサレムの中では、偽預言者が数多く出て、バビロンを主が打ち砕き、バビロンに連れて行かれたものはすぐに戻されるという預言を行なっていましたが、主の御心はその正反対であることを、はっきりとここで示しているのです。

また、エゼキエルの預言は、彼が祭司であることが非常に色濃く出ています。平鍋は、穀物の捧げ物を焼く時に使われるものです(レビ 2:5 など)。それを今、主ご自身がバビロンを用いて、彼らを包囲していることに使われています。

4:4 あなたは左わきを下にして横たわり、イスラエルの家の咎を自分の身の上に置け。あなたがそこに横たわっている日数だけ彼らの咎を負え。4:5 わたしは彼らの咎の年数を日数にして三百九十日とする。その間、あなたはイスラエルの家の咎を負わなければならない。4:6 あなたがその日数を終えたら、次にまた、あなたの右わきを下にして横たわり、ユダの家の咎を四十日間、負わなければならない。わたしは、あなたのために一年に対して一日とした。4:7 それから、あなたは顔を、包囲されているエルサレムのほうにしっかりと向け、腕をまくり、これに向かって預言せよ。4:8 見よ。わたしはあなたになわをかけ、あなたの包囲の期間が終わるまで寝返りができないようにする。

強烈な預言です。一年以上、横向きにし、しかも寝返りをすることなく、寝ていなければいけないのです。そして、一回寝返りができたと思いきや、一ヶ月以上再びその姿勢でいなければいけません。この横たわっているのは、北イスラエルの咎と南ユダの咎を表しているわけですが、イスラエルの 390 年とユダの 40 年がいったいどの期間を表しているのか、注解書を見ても定かではありません。おそらく、イスラエルの王の統治とユダの王の統治の期間を示していることでしょう。ソロモンの死後、イスラエルの国が分裂してから北イスラエルが初めにアッシリヤによって捕え移され、それから間もなくして南ユダがバビロンに捕え移されることを示していると思われます。

しかし、正確な年数については、若干のずれがあります。ここには、神の裁きの重さを伝えるための象徴的な期間であると私は考えます。彼らは、エジプトから神に救い出されて、神の民となった人々です。エジプトにいる時は、奴隷として強いられる苦役のために悩み、泣き叫び、痛みを覚えていました。その期間が 430 年であったことが、出エジプト記 12 章 40,41 節で記されています。イスラエルの咎の期間が 390 年でユダは 40 年で、足すと 430 年です。つまり、彼らは再び、エジプトで奴隷状態であった時と同じ苦しみを味わっている、ということを表しているのだらうと考えます。そしてユダの咎の期間は 40 年ですが、イスラエルがようやくエジプトから出て、約束の地に入ろうとしたところが、不信仰に陥り、エジプトに戻ろうと言い出したので、主は彼らの大人の世代を荒野で葬らせるべく、40 年間さまよわせました。この 40 年を表しているのではないかと思います。つまり今、主は、鉄の壁、また、エジプトの苦役の期間、そして荒野での旅を彼らに思い出させて、神の裁きの過酷さ、厳しさを味わうようにさせておられるのではないかと考えます。

エゼキエルが顔をしっかりと向け、腕をまくっているのは、神が裁きを行なわれている間、ご自分の目を彼らから逸らすことはないことを表しています。私たちは、悲惨な出来事からは目を逸らしたいですね。けれども、神はそれを敢えて見つめることによって、彼らが自分たちの行なっていることで、バビロンに取り囲まれることにつながっているのだということを示しているのです。

### 2C 食べ物の欠乏 9-17

4:9 あなたは小麦、大麦、そら豆、レンズ豆、あわ、裸麦を取り、それらを一つの器に入れ、それでパンを作り、あなたがわきを下にして横たわっている日数、すなわち、三百九十日間それを食べよ。4:10 あなたが食べる食物は、一日分二十シケルを量って、一日一回それを食べよ。4:11 あなたの飲む水も、一日分一ヒンの六分の一を量って、それを一日一回飲め。4:12 あなたの食物は大麦のパン菓子のようにして食べよ。それを彼らの目の前で、人の糞で焼け。」

このパンは、いかにも貧弱なパンを示しています。そんな、ぐちゃぐちゃに混ぜたらまずいのは分かっていますが、小麦が欠乏しているので、他のを混ぜないといけないのです。これは、戦時中に「節米料理」として、米以外の具材を混ぜたのと同じ発想です。しかも、その摂食量が少なすぎます。20 シケル、224 ㍑のパンです。そして六分の一ヒンは 633 ミリリットルで、これが一日分の水の量です。そして、人の糞で焼きます。これは、燃料不足を示していることを示しています。

4:13 それから主は仰せられた。「このように、イスラエルの民は、わたしが追いやる国々の中で、彼らの汚れたパンを食べなければならない。」4:14 そこで、私は言った。「ああ、神、主よ。私はかつて、自分を汚したことはありません。幼い時から今まで、死んだ獣や、野獣に裂き殺されたものを食べたことはありません。また、いけにえとして汚れている肉を口にすることもありません。」4:15 すると、主は私に仰せられた。「では、人の糞の代わりに牛の糞でやらせよう。あなたはその上で自分のパンを焼け。」

ユダヤ人であれば、レビ記 11 章にある食物規定を守らなければいけません。祭司ならなおさらのことです。それでエゼキエルは、人の糞だけは勘弁してください、とお願いして、主は憐れんでくださいました。同じようなことを主に要求されて、当惑した人が新約聖書に出てきますね。ペテロです。汚れているとされる動物をほふって食べなさい、という天からの声を聞きました。「主よ。それはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことはありません。(使徒 10:14)」と言いましたが、主は、「神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない。(15 節)」と言われました。それは異邦人のことを表していたのです。しかし、エゼキエルについては、そのような積極的な意味はなく、むしろ祭司であるエゼキエルが、そんな汚れたことをやっていることで、見ている者たちに衝撃を与えているのです。それだけ、自分たちの中に尊厳がなくなるのだよ、ということ伝えていきます。

4:16 そして、私に仰せられた。「人の子よ。見よ。わたしはエルサレムで、パンのたくわえをなくしてしまおう。それで彼らはこわごわパンを量って食べ、おびえながら水を量って飲むであろう。4:17 それはパンと水が乏しくなるからだ。彼らは自分たちの咎のために、みなやせ衰え、朽ち果てよう。」

彼らが食糧不足によって、衰え、死んでいきます。その理由をはっきりと、主は、「自分たちの咎のために」と言っています。罪から来る報酬は死なのだ、という厳粛な神の裁きの宣言です。

## 2B 諸国より悪い民 5

続けて主は、象徴的行為をエゼキエルにさせます。包囲されて、その中で飢饉が起こるのですが、包囲の最後にどうなるのかを示す行為です。

### 1C 三分の裁き 1-12

5:1 人の子よ。あなたは鋭い剣を取り、それを床屋のかみそりのように使って、あなたの頭と、ひげをそり、その毛をはかりで量って等分せよ。5:2 その三分の一を、包囲の期間の終わるとき、町の中で焼き、またほかの三分の一を取り、町の回りでそれを剣で打ち、残りの三分の一を、風に吹き散らせ。わたしは剣を抜いて彼らのあとを追う。5:3 あなたはそこから少しの毛を取り、それをあなたの衣のすそで包み、5:4 そのうちからいくらかを取って、火の中にくべ、それを火で焼け。火がその中から出て、イスラエルの全家に燃え移ろう。」

祭司であるエゼキエルにとって、これは人の糞に引き続き、とても辛い命令です。人が死んだ時にイスラエル人は頭の毛や髭を剃ったりしますが、祭司に対してはそれさえもしてはいけないと、主はレビ記 21 章で命じておられます。けれども主は、エルサレムの住民が味わう究極の悲しみと嘆きを表すために、またバビロンの剣によって刺されることを表すためにこのことを行なわせたのです。

そして、その切り取った髪の毛についてですが、三つの区分があります。三分の一は、町の中で、火で焼かれます。これは 12 節に主が解き明かされますが、疫病か飢饉で死ぬことを意味しています。栄養状態が悪いのと、衛生状態も悪くなり、体の免疫が低下しているので、疫病にかかりやすいです。そして次の三分の一は、バビロンが城壁内に入ってきて、生きている者たちを剣で殺していきます。それから残りの三分の一が、捕えられてバビロンに連れて行かれる様子を示しています。僅かにつかんだ少しの髪の毛を町の中で燃やすのは、町の家々がバビロンによって火が付けられて燃えてしまうことを示しています。

5:5 神である主はこう仰せられる。「これがエルサレムだ。わたしはこれを諸国の民の真中に置き、その回りを国々で取り囲ませた。5:6 エルサレムは諸国の民よりも悪事を働いて、わたしの定め  
に逆らい、その回りの国々よりもわたしのおきてに逆らった。実に、エルサレムは、わたしの定めを  
ないがしろにし、わたしのおきてに従って歩まなかった。」5:7 それゆえ、神である主はこう仰せら  
れる。「あなたがたは、あなたがたの回りの諸国の民よりも狂暴で、わたしのおきてに従って歩ま  
ず、わたしの定めを行なわず、それどころか、あなたがたの回りの諸国の民の定めさえ行なわな  
かった。」

粘土の板から始まる、象徴的行為がここで終わります。「これがエルサレムだ」と主は言われます。エルサレムが、「諸国の民の真中に置」かれています。そうです、主はご自分の都としてエルサレムを選ばれ、そこでご自分の栄光を輝かして諸国に対してご自分の証しを立てようとされました。しかし、彼らがまさにここで悪事を働いたので、主が裁かれるのです。高い位についている人が罪を犯したら、普通の人よりもその位に相当な責任を負わなければいけないのと同じように、エルサレムは、諸国の中で光となるように召されていたのに、そうではないことを行なったので、諸国の中での誹りとなりました。バビロンは帝国となっており、諸国民によって構成されていました。また、同盟を結んでいたはずのアモン、モアブ、エドム、ツロなどは、彼らを助けず、エドムなどはむしろそこで漁夫の利を得ました。

そして、彼らが行なっていたことは、主ご自身の掟を破っていただけではなく、その諸国の掟さえも破っていたということです。ヒゼキヤの息子マナセが行なっていたことについて、列王記の著者は次のように書いています。「2列王 21:9 しかし、彼らはこれに聞き従わず、マナセは彼らを迷わ  
せて、主がイスラエル人の前で根絶やしにされた異邦人よりも、さらに悪いことを行なわせた。」そ  
の偶像礼拝を、エルサレムの中、そして神殿の中で行なっており、そして生まれてきた子供に火の

中を通らせることもし、それを行わないものを迫害した罪を犯しました。

ここから二つのことが話せます。一つは、「地の塩、塩気をなくしたら、踏みつけられる。」ということです。「マタイ 5:13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。」周囲の国々が行なっていることを、選り別たれて聖なる国民とされた者たちが同じようにやっていくのであれば、その周囲の国々の中で踏みつけられるということです。私たちがキリスト者として、他の信じていない人々と、どのような違いを出しているのか？もし同じことをしているのであれば、その中で生きることはできません。むしろ世において踏みつけられる経験をしませう。

もう一つは、「不信者たちよりも、神の民が墮落することもあり得る。」ということです。ここで、諸国の民の定めさえ行わなかった、とあります。コリントにある教会で、近親相姦の罪がそのままにされていました。それでパウロは、使徒に与えられた権威を用いて、彼をサタンに引き渡したとコリント第一 5 章で話しています。「5:1 あなたがたの間に不品行があるということが言われています。しかもそれは、異邦人の中にもないほどの不品行で、父の妻を妻にしている者がいるとのことです。」ローマの法律でさえ禁じられていることを行なっていました。これは現実的です。宗教の中で、その教えが捻じ曲げられて、社会で認められていないことさえ許してしまうということは、起こり得ます。

5:8 それゆえ、神である主はこう仰せられる。「今、わたしもあなたを攻め、諸国の民の目の前で、あなたにさばきを下す。5:9 あなたのしたすべての忌みきらうべきことのために、今までしたこともなく、これからはしないようなことを、あなたのうちで行なう。5:10 それで、あなたのうちの父たちは自分の子どもを食べ、子どもたちは、自分の父を食べようになる。わたしは、あなたにさばきを下し、あなたのうちの残りの者をすべて四方に散らす。5:11 それゆえ、..わたしは生きている。神である主の御告げ。..あなたはあなたのすべての忌むべきものと、すべての忌みきらうべきことで、わたしの聖所を汚したので、わたしはあなたを取り去り、わたしはあなたを惜しまず、また、あわれまない。5:12 あなたの三分の一はあなたのうちで疫病で死ぬか、あるいは、ききんで滅び、三分の一はあなたの回りで剣に倒れ、残りの三分の一を、わたしは四方に散らし、剣を抜いて彼らのあとを追う。

エルサレムは諸国の民の注目の的として神は定められていたので、その裁きも注目の的とされます。そして飢饉の激しさが、なんと父が子を食い、子が父を食うというところまでに至らせます。

そして主はここで、「わたしの聖所を汚した」と言われます。その生々しい姿は、次回、8 章で読んでいきます。聖所そのものでいかに、忌まわしい汚らわしいことをしていたかを神はエゼキエルに明らかにされます。それゆえ、彼らを三区分する裁きを与えられ、そして四方に散らされるのです。

## 2C 熱心な語り 13-17

5:13 わたしの怒りが全うされると、わたしは彼らに対するわたしの憤りを静めて満足する。わたしが彼らに対する憤りを全うするとき、彼らは、主であるわたしが熱心に語ったことを知ろう。

主は、「怒りが全う」される時、「憤りを静めて満足する」時を定めておられます。怒りを全うすること、憤りを静めるということは、神の正義が完全に執行されたことを意味します。新約聖書に、「なだめの供え物」と訳されている言葉があります(1ヨハネ 2:2)。至聖所の中にある、贖いの蓋のことを指していますが、それは神の怒りが全うされたことを意味します。つまり、神はちょうど六日で天地を創造されて完成されたので、七日目に休まれたと同じように、エルサレムのバビロンの破壊をもってご自分の憤りを全うされ、休まれるのです。キリストが、その宥めの供え物であり、その十字架の御業によって神はご自分の怒りを全うされたのです。

そして、このことに初めて、「彼らは、主であるわたしが熱心に語ったことを知ろう」とあります。私たちの主、天地万物を造られた方は、語られる神です。しかし彼らが慕い求めた偶像は、口があっても語ることのできない、物申すことのない神々です。彼らは、偶像に心を寄せていたので、神の語られる言葉が心に入りませんでした。心が包皮で覆われていて、主が語られても、ゴムにぶつかると跳ね返ってくるだけでした。しかし、主がエルサレムを破壊される時に、ようやく主がずっと語っておられたのだということに気づくのです。

主はこのようにして、語られる方です。そして熱心に、熱く語られる方です。イエス様が宮清めをされた時に詩篇 69 篇 9 節が成就しましたが、「それは、あなたの家を思う熱心が私を食い尽くし、あなたをそしる人々のそしりが、私に降りかかったからです。」とあります。そして主は、生ぬるくなっていたラオデキヤの教会に、その熱心さをもって語られました。「黙示 3:19 わたしは、愛する者をしかったり、懲らしめたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。」と言われました。神がご自分の義や聖にしたがって、この世で起こっていることについて熱心に関わろうとされます。そこに強く関与されようとし、無感動、無感覚でいられないようにされます。

5:14 わたしは、あなたの回りの諸国の民の中で、通り過ぎるすべての者の目の前で、あなたを廃墟とし、そしりとする。5:15 わたしが怒りと憤りと譴責とをもって、あなたにさばきを下すとき、あなたは回りの諸国の民のそしりとなり、ののしりとなり、戒め、恐れとなる。主であるわたしがこれを告げる。5:16 わたしがひどいきんの矢をあなたがたに放つとき、あなたがたは滅びてしまおう。わたしがそれを放つのは、ききをいっそうひどくして、あなたがたのパンのたくわえをなくし、あなたがたを滅ぼすためである。5:17 わたしはあなたがたにききんと、悪い獣を送る。彼らはあなたに子を失わせる。疫病と虐殺とがあなたのうちに起こる。わたしはあなたに剣を臨ませる。主であるわたしがこれを告げる。」

主が、諸国の目の前でご自分の怒りを示すことを繰り返しておられます。それは、彼らにとって

誇りとなるだけでなく、「戒め、恐れ」ともさせます。主なる神がおられることを、恐れをもって知ることができるようになります。私たちは、選ばれた民ユダヤ人の歴史を見る時に、人の罪の深さを、恐れを持って見ますね。ホロコーストがその典型です。それから、飢饉のことも繰り返しておられます。そして飢饉だけでなく、悪い獣も、また疫病も虐殺ももたらして、これから起こることが、主が語っておられることを知らせようとおられるのです。

## 2A イスラエルの荒廃 6-7

そして6章と7章に入ります。エルサレムからさらに視野を広げて、イスラエルの土地全体を主が荒廃をもたらすことを宣言されます。

### 1B 偶像の祭壇 6

#### 1C 高き所の汚し 1-10

6:1 次のような主のことばが私にあった。6:2 「人の子よ。あなたの顔をイスラエルの山々に向け、それらに向かって預言して、6:3 言え。イスラエルの山々よ。神である主のことばを聞け。神である主は、山や丘、谷川や谷に向かってこう仰せられる。見よ。わたしは剣をあなたがたにもたらし、あなたがたの高き所を打ちこわす。6:4 あなたがたの祭壇は荒らされ、あなたがたの香の台は碎かれる。わたしはあなたがたのうちの刺し殺された者どもを、あなたがたの偶像の前に投げ倒す。6:5 わたしは、イスラエルの民の死体を彼らの偶像の前に置き、あなたがたの骨をあなたがたの祭壇の回りにまき散らす。6:6 あなたがたがどこに住もうとも、町々は廢墟となり、高き所は荒らされる。あなたがたの祭壇は廢墟となり、罪に定められる。あなたがたの偶像が碎きに碎かれ、あなたがたの香の台は切り倒され、あなたがたのしたわざは消し去られ、6:7 刺し殺された者があなたがたのうちに横たわるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知ろう。

イスラエルは多様な地形をしています。南北に走る山脈があれば、ヨルダン川のところに、シリア-アフリカ地溝があり、世界で最も低い陸地を形成しています。これら谷や川、山々が回復する預言を、エゼキエルは36章で行ないますが、ここではその反対に裁きが行なわれる預言です。なぜなら、こうした蒼く茂ったところで彼らは高き所を造り、偶像礼拝を行ない、そこで性的に忌まわしいことを行なっていたからです。そして、それらの偶像礼拝をさせなくする最も効果的な方法は、死体やその燃やした灰をばらまくことでした。イスラエル人は、律法において死体に触れてはいけないと命じられていましたが、偶像礼拝者の間にも同じ信仰があったようです。それでヨシヤ王は宗教改革において、墓から骨を掘り起こして、それらの偶像の祭壇にまき散らし、それによって彼らが二度と、そこで拝むことができないようにしたのです(2列王 15:16)。そして今、バビロンが攻めてきて、彼ら自身も偶像礼拝者ですが、征服する象徴としてその民が拝んでいるものも破壊していくことを行っていきました。

ここで大事なことは、神は裁かれる方であり、同じ量りで裁かれる方だということです。主は諸国の民と同じようなことを行ない、またそれ以上のことを行なったので、諸国の間で彼らを裁くと宣言



されました。異教徒している慣わしに倣ったので、異教徒によって滅ぼしたのです。そして今、偶像を拜んでいたのも、その偶像の前で自分の死体をさらすこととなります。私たちは罪を犯し、それを犯し続ければ、その罪によって、自分の慕っているものによって、自分が滅ぼされることになるのです。周りに合わせて自分の塩気を取ってしまったら、踏みつけられるのです。

6:8 しかし、わたしは、あなたがたのある者を残しておく。わたしがあなたがたを国々に追い散らすとき、剣をのがれた者たちを諸国の民の中におらせる。6:9 あなたがたのうちののがれた者たちは、とりこになって行く国々で、わたしを思い出そう。それは、わたしから離れる彼らの姦淫の心と、偶像を慕う彼らの姦淫の目をわたしが打ち砕くからだ。彼らが自分たちのあらゆる忌みきらうべきことをしたその悪をみずからいとうようになるとき、6:10 彼らは、わたしが主であること、また、わたしがゆえもなくこのわざわいを彼らに下すと言ったのではないことを知ろう。」

午前礼拝の説教を後で聞いてください。そこで、主から離れた偶像を慕う心にある、神の傷ついた心についてお話ししました。そして、「わたしが主であること」を彼らは知ります。先ほどは、主が熱心に語られたことを知るようになると言われました。そして、主ご自身がおられること、その栄光があることを知るようになります。要は、神が私たちを裁かれるのは、神ご自身に栄光が向かず、人やその他のものに栄光が向かっているからです。「2コリント 4:4 そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。」神は、ご自分が主であることを現わすために、必ず裁きを行われます。主は真実な方です。

## 2C 打ち叩く主 11-14

6:11 神である主はこう仰せられる。「あなたは、手をたたき、足を踏み鳴らして、剣とききんと疫病とによって倒れるイスラエルの家の忌みきらうべきすべての悪に対して、『ああ。』と叫べ。

主はさらにエゼキエルに、動作による預言を行わせています。「手をたたき、足を踏み鳴らす」のですが、これはバビロンによるイスラエルへの侵攻を表しています(21:14,17)。手を叩くのは、怒りを表しています。そして足を踏み鳴らすのは、バビロンの兵士たちがイスラエルの地に踏み込んでいる動作です。

6:12 遠くにいる者は疫病で死に、近くにいる者は剣に倒れ、生き残ってとどめられている者はききんで死ぬ。彼らへのわたしの憤りは全うされる。6:13 彼らのうちの刺し殺された者が、彼らの偶像の間、その祭壇の回りや、すべての高い丘の上、山々のすべての頂、すべての青木の下や、すべての茂った檜の木の下、彼らがすべての偶像になだめのかおりをたいした所に横たわるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知ろう。6:14 わたしが彼らの上に手を伸ばし、すべて彼らの住む所、荒野からリブラまで、その地を荒れ果てさせて荒廃した地とすると、彼らは、わたしが主であることを知ろう。」

主はここで、4章からの預言をまとめています。疫病、剣、飢饉による死。そしてイスラエルの山々や谷における偶像礼拝に対する裁き、です。そしてその裁きの領域が、ユダの南、荒野からシリアにある町、リブラまでバビロンによって荒れ果てさせると言われます。そして事実、バビロンはこの広範囲な地域を、数年後に戦禍によって荒廃した地域とせしめます。これはちょうど、私たちが経験した東日本大震災の津波の被害に似た衝撃でしょう。岩手県の北部から茨城県、そして千葉県の一部にまでその被害をもたらしましたが、あまりにも広範囲です。主は、終わりの日に全世界に荒廃をもたらすことによって、ご自分こそが主であることを現わされるのです。

## 2B 終局の到来 7

そして7章に入ります。ここで主は、「終わりの時が来る」ということを何度となく強調されます。

### 1C 行ないへの報い 1-9

7:1 ついで、私に次のような主のことばがあった。7:2 「人の子よ。イスラエルの地について神である主はこう仰せられる。『もう終わりだ。この国の四隅にまで終わりが来た。7:3 今、あなたに終わりが来た。わたしの怒りをあなたのうちに送り、あなたの行ないにしたがって、あなたをさばき、あなたのすべての忌みきらうべきわざに報いをする。7:4 わたしはあなたを惜しまず、あわれまない。わたしがあなたの行ないに返しをし、あなたのうちの忌みきらうべきわざをあらわにするとき、あなたがたは、わたしが主であることを知ろう。』7:5 神である主はこう仰せられる。「わざわざいが、ただわざわざが来る。7:6 終わりが来る。その終わりが来る。あなたを起こしに、今、やって来る。7:7 この地に住む者よ。あなたの上に終局が来る。その時が来る。その日は近い。しかし、山々での歓声の日ではなく、恐慌の日だ。7:8 今、わたしはただちに、憤りをあなたに注ぎ、あなたへのわたしの怒りを全うする。わたしはあなたの行ないにしたがって、あなたをさばき、あなたのすべての忌みきらうべきわざに報いをする。7:9 わたしは惜しまず、あわれまない。わたしがあなたの行ないに返しをし、あなたのうちの忌みきらうべきわざをあらわにするとき、あなたがたは、わたしがあなたがたを打っている主であることを知ろう。」

当時のユダヤ人は、「今は大変な時期だが、何とか持ちこたえるのではないか。」と期待していたかもしれません。これは人間の本能的な期待であり、今の状態はいつまでも続くと考えているのです。それゆえ主は繰り返して、「終わりだ」と叫んでおられます。世の終わりについて、人々が同じように「これまで続いてきたのだから、これからも同じように天地は続く」と考える者たちが出てくると、預言されています。「2ペテロ 3:3-4 まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、次のように言うでしょう。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか。先祖たちが眠った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。」これは、私たちの心のどこか奥底にあります。そのために、私たちは、「主人はまだ来まい。」とつぶやいて、下僕を打ち叩くような主人のしもべのように、自分の欲望にしたがって生きる誘惑を受けるのです。しかし、主は来られます。世を終わらせます。そしてここで主がエゼキエルを通して、エルサレムに終わりが近づき、その時にこれまでの行ないに応じて報

いと言われるように、世の終わりの時に全ての行ないについて、報いを与えられるのです。新天地の始まる前に、最後の審判が行われ、その時に行いの書が開かれて、そこに書かれてある通りに裁かれます。

終わりのことを軽んじる者たちに対する警告をパウロは、ローマ 2 章で行ないました。「2:4-6 それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らなくて、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。神は、ひとりひとりに、その人の行ないに従って報いをお与えになります。」そしてキリスト者は、罪に定められることはありませんが、行ないに応じて報われる「キリストの座」の前に出ていきます。「2コリント 5:10 なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。」終わりの日は、主に従う者たちにとっては、喜ばしい、歓喜の出来事です。労苦がその時に報われます。しかし、主に逆らう者たちにとっては、恐ろしい日です。

#### 2C 富や力の空しさ 10-22

7:10 見よ。その日だ。その日が来る。あなたの終局がやって来ている。杖が花を咲かせ、高慢がつぼみを出した。7:11 暴虐はつのもつて悪の杖となり、彼らも、その群集も、彼らの富もなくなり、彼らのために嘆く者もいなくなる。

主が裁かれるのは、高慢になっているからだとここにあります。今、引用したローマ 2 章にも、主はへりくだる者、悔い改める者には豊かな憐れみを施してくださいます。主は忍耐深く、耐え忍んでおられます。ところが、そうしたことをないがしろにする心、軽んじる心が私たち人間にはあるんですね。その高慢に対して主は裁かれます。

そして、それを、「高慢という実を結ばせる杖」として主は喩えておられます。祭司エゼキエルにふさわしい表現です。初めの祭司アロンは、アーモンドの花と実を結ばせた杖を持っていました。そしてそこから芽が出て、実が結ばれました。これは命を、またその祝福を示すものですが、主は今、それを逆手に取って、衝撃的な言葉をユダの民に投げかけておられるのです。ヤコブ書にも同じことが書かれていますね。「欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。(1:15)」

7:12 その時が来た。その日が近づいた。買う者も喜ぶな。売る者も嘆くな。燃える怒りがすべての群集にふりかかるから。7:13 売る者は、生きながらえても、売った物を取り返せない。幻がそのすべての群集にあっても、群集は帰らない。だれも、自分の不義のうちにいながら、奮い立って生きることはできないからだ。

終わりの日において、売り買いができなくなります。全ての経済活動は、この戦禍によって意味

をなさなくなってしまうからです。売っている者たちは、買った者から収益を得る前に襲われてしまって、お金を回収できません。買った者は、「金を払わずに済んだ」と思っても、その喜びは束の間、自分たちの買った者もバビロン軍によって奪い取られます。

7:14 ラツパが吹き鳴らされ、みな準備ができて、だれも戦いに行かない。わたしの燃える怒りがそのすべての群集にふりかかるからだ。7:15 外には剣、内には疫病とききんがあり、野にいる者は剣に死に、町にいる者はききんと疫病に滅ぼし尽くされる。7:16 それをのがれた者が逃げて、山々に行っても、彼らは谷間の鳩のようになって、みな自分の不義のために泣き悲しむ。7:17 彼らはみな氣力を失い、彼らのひざもみな震える。

終わりの日においては、戦いの力も意味をなさなくなります。圧倒的に強いバビロン軍によって、イスラエルの民は残りの武器で戦っても全く意味をなしません。それで、ひたすら逃げるだけです。剣で倒れ、また町の中で包囲されている者たちは疫病と飢饉で死にます。そしてたとえ、辛うじて生き残ったとしても、あまりもの悲惨さに隠れながら嘆き悲しむだけです。

7:18 彼らは荒布を身にまとい、恐怖に包まれ、彼らはみな恥じて顔を赤くし、彼らの頭はみなそられてしまう。7:19 彼らは銀を道ばたに投げ捨て、彼らの金は汚物のようになる。銀も金も、主の激しい怒りの日に彼らを救い出すことはできない。それらは彼らの飢えを飽き足らせることも、彼らの腹を満たすこともできない。それらが彼らを不義に引き込んだからだ。7:20 彼らはこれを、美しい飾り物として誇り、これで彼らの忌みきらうべきもの、忌むべきものの像を造った。それで、わたしはそれを、彼らにとって汚物とする。7:21 わたしはそれを他国人の手に獲物として渡し、この国の悪者どもに分捕り物として渡し、それを汚させる。7:22 わたしは彼らから顔をそむけ、わたしの聖なる所を汚させる。強盗はそこには入り込み、そこを汚そう。

彼らが築き上げた富は、戦禍において全く意味をなしません。今、食糧が全くないという時に、その金銀を使うことのできるような経済活動はいつさいないからです。そして、その金銀で作った偶像があります。飾り物があります。それらも全く意味のないものとなり、それゆえ祭司に対するような表現、「汚れた物となる」と主は言われます。そして、それらはカルデヤ人の手に渡りますが、最も悲惨なのは、神の宮の金や銀の器がバビロンに持っていかれることです。「わたしは彼らから顔をそむけ、わたしの聖なる所を汚させる。強盗はそこには入り込み、そこを汚そう。」と言われます。

私たちキリスト者は、富について、それを賢く管理することが命じられています。しかし、それはこの世において生き残るための管理ではなく、御国において豊かにされるための管理であります。イエス様が不正の管理人のたとえで、「不正の富で、自分のために友を作りなさい。そうしておけば、富がなくなったとき、彼らはあなたがたを、永遠の住まいに迎えるのです。(ルカ 16:9)」と言われました。御国の幻を信仰でしっかりとらえているでしょうか？ 私たちは来る神の国で、神の相続人となるのです。この地上を、キリストと共に支配するようになるのです。その幻に応じて、私た

ちが今ある富をどのように管理しているでしょうか？私のような専門の教会奉仕者だけが管理者ではありません。みなさん一人一人が、御国の管理者なのです。さもなければ、それらの富は終わりの日には錆となります。お荷物となります、汚れたものとされます。

### 3C 聖所の汚し 23-27

7:23 鎖を作れ。この国は虐殺に満ち、この町は暴虐に満ちているからだ。7:24 わたしは異邦の民の中で最も悪い者どもを来させて、彼らの家々を占領させ、有力者たちの高ぶりをくじき、彼らの聖所を汚させよう。7:25 苦悩がやって来る。彼らは平和を求めるが、それはない。7:26 災難の上に災難が来、うわさがうわさを生み、彼らは預言者に幻を求めるようになる。祭司は律法を失い、長老はさとしを失う。7:27 王は喪に服し、君主は恐れにつつまれ、民の手はわななく。わたしが彼らの行ないにしたがって彼らに報い、彼らのやり方にしたがって彼らをさばくとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。」

エゼキエルに再び、行動による預言を行わせています。「鎖を作れ。」ということです。これはバビロンによって捕え移される時の鎖であります。イスラエルの地とエルサレムの町は、虐殺と暴虐に満ちていました。ゆえに主が、虐殺と暴虐によって報いを与えられます。異邦人の中でも横暴なバビロンを連れてこさせました。

そして主はここで、頼るべき指導者らを無に帰することを宣言されています。有力者の高ぶりをくじかれます。そして神殿の聖所は汚されます。ダニエル書 1 章には、ネブカデネザルが神の宮の器を、自分の神の宮の器に入れたことが書かれています。そして、祭司の律法は失われます。長老たちの教えも失われます。そして預言者の幻とありますが、これはちょうど、彼らが何でもいいから良い知らせ、将来の希望を見させてくれ、という偽預言者に対するような期待です。それらはみな、裏切られます。そして王も、君主も力を失います。それで民は戦慄します。こうやって、主は頼ることができる期待するものを、全て取り除かれます。そのことによって、ご自身が主であることを彼らが知るのです。

私たちはここから、主の前に裸で出なければいけないことを知りますね。自分には、これこれがあるから安心だ、という弁解を、心の中で抱いてしまいます。主はその一つ一つを取り除かれますね。ただ自分自身が、何も持たないで、主の前に出た時に、何が残っているのでしょうか？主に対して行なったこと、この方に愛され、御霊の喜びの中で行なったことのみが残るのです。ですから、一人一人が主の前に出て、みことばで吟味し、それで主の恵みにあずかっていることが必要です。